

□防災まちづくり大賞(自治大臣賞)受賞その後の活動状況について～「相島少年消防クラブ」活動紹介～

福岡県粕屋郡新宮町

相島少年消防クラブ顧問 大江 公二

平成 11 年に「自治大臣賞」をいただき、その後、多くの新聞、TV 取材の方が訪ねて来られましたが、島に住む者にとって「島を守る」当たり前の行いが想像以上の評価を受け、大変恐縮しています。

消防クラブ員は、長期にわたって先輩方や島民の皆様に培われた伝統を引継ぎ、日々の習慣としてやって来たものが、「防災まちづくり大賞」という思いもかけぬ大きな賞を頂き、それ以来、島民とクラブ員達には自信と誇りが芽生え、日々の夜回りにも凜としたものが見られるようになりました。

大賞を受けたことは、やはり、島民とクラブ員の何かを大きく変えたようでした。

相島消防クラブ員は、島の人間であるがゆえに、一般の中学生と異なり、島の主産業である漁業を学業の合間に支え、その上防災活動を行なわねばなりません。このことは、思春期の中学生にとって大きく深い意味があると考えられます。

しかし、時代の流れか、ここ相島も「少子化」の波に飲み込まれ、クラブ員は、近年減少の一途をたどり、平成 18 年度には、クラブ員が 3 名にまで減ってしまいました。そ



れでも、伝統は、脈々と受け継がれ、日々活発な活動を続けています。

ここに、再度、相島に根付いたクラブ員の近年の活動内容等を紹介します。

**伝統ある相島少年消防クラブ**

11 月の相島文化祭で、毎年劇の発表をしている。平成 15 年度の劇では BFC 活動を劇にすることに決まった。新入団員が入団式・規律訓練・夜回り活動を通して団員としての自覚を高めていくという内容で「はじめての BFC」と題して公演した。

劇の公演に先立って「相島少年消防クラブ」結成時の分校に勤務していた先生にそ

の当時の話を聞いた。「明治3年に民家の約八割を焼失する火事が昼間に発生した。

当時、大人は漁に出ている、島に残っているお年寄りや子どもたちはこれに対処することができなかった。」この教訓を生かして昭和23年7月、生徒会の申し合わせにより、中学生の奉仕の一端として「火の用心」を島内に呼びかけ警火を促すため全生徒が参加する夜回り当番が計画された。島内を南・中・北の3班に分けて輪番による夜回り活動を開始した。こうして「相島少年消防クラブ」が誕生した。(夜回りは50年以上たった今も変わらず続いている。)防火の呼びかけだけではなく、火災に対する知識、初期消火・救急救命の技能などの習得に努めながら活動を充実させ現在にいたっている。

伝統の重みを感じながら劇に臨んだ。劇を通して防火を呼びかけた。

## 災害に対して

平成17年3月20日、福岡西方沖地震での島の被害は大きかった。民家の瓦が落ち、神社の鳥居が崩れ、岸壁は大きく段差がついてずれてしまった。沿岸部では陥没したところもあった。住宅や斜面が崩れる心配から漁村センターへ避難する方々もいた。

生徒たちは地震の直後、老人だけで生活している家を心配して訪ねた。声をかけた家や家の周りを調べたりした。

前年に島で民家の火災があった。夜のことで、島の消防団水上分団が消火活動をした。生徒たちは直接消火活動にかかわらなかったが、ホースを伸ばすうえでの障害物をのぞいたり、消火後のホースのかたづけを手伝ったりした。

島内での生徒たちの防災意識はBFC活動の中で育っているようである。

## 夜回り活動

近年、分校の生徒数は非常に少ない。昨年度の全校生徒数は4人だった。週4回3人で夜回りを1人週3回参加していた。現在は3人である。週四回全員で夜回り活動を行っている。集合場所に夜9時に集まって三つの地域を交代で回る。9時半くらいに戻り日誌を書いて終わる。拍子木・ノートは順番に管理する。長期休暇や土曜日など島をはなれて高校に通う先輩が戻って来て一緒に回ることがある。高校生活の話をいろいろ教えてくれる。



## 入団式・規律訓練

4月、入学してまもなくBFC入団式を行

う。新入生が正式に「相島少年消防クラブ」の団員となる。消防長より BFC の手帳・制服が渡される。その後全員そろっての規律訓練が粕屋北部消防本部の指導を受けて行われる。新入団員含めての夜回り活動の当番割を行う。新入生にとっての夜回り活動は、中学生になって地域のために奉仕するという自覚を促す行事である。

### ポンプ操法

平成10年に新宮町より軽可搬ポンプの寄贈を受ける。以来、毎年5月に粕屋北部消防本部の指導を受けて操法訓練を行っている。3人による操法は今年度がはじめてである。中隊長が号令をかけ、操作が始まると中隊長自らホースをポンプにつないだ後に筒先と2本目のホースを持って連結し構える。1番員は2番員とともに吸管をつなぎ筒先まで走る。伝達で何度も往復する。

2番員はエンジンをかけ放水の準備をする。放水終了後は吸管を片付け、中隊長、1番員がホースを片付ける。5月とはいえ汗びっしょりの訓練であった。

2学期の小中学校地域合同の運動会で毎年ポンプ操法を披露している。運動会前に



は、訓練を重ね今年も成功させたい。最も心配なのがポンプのエンジンがすぐにかかるかどうかである。毎月1回はエンジンをかけるようにしている。

### 消火訓練・救急法講習会

6月に、粕屋北部消防本部の指導で消火訓練・救急法講習会をおこなっている。小学校と合同で、保護者・消防団・老人会そして今年度は新たに発足した婦人消防クラブにも呼びかけた。救急法講習会では地域性もあり特に水難事故防止についての話に重点がおかれる。心肺蘇生法の実技は児童・生徒全員が毎年行っている。回数を重ねることでみんなが上手になっている。平成17年度はAED(自動体外式除細動)の使い方も学んでいる。

相島は新宮から7.5kmほど離れている。緊急時の体制として、小学校のグラウンドをヘリポートとして使えるようになっていて毎年訓練も行われている。講習会后、どこからヘリが来るのかとか、どこの病院へ行くのか、付き添いも乗れるのかななどの質問があった。



## 一日体験活動

3年サイクルで体験活動を行っている。

- ①粕屋北部消防本部で消防訓練を受ける。  
組織について、また、さまざまな特殊車両について実物を見ながら説明を聞く。レスキューの特殊工具を実際に試してみる。ロープの結び方、ロープ上での横への移動、3階からの降下などを体験した。
- ②新宮町内の文化施設や文化財の見学、特に国指定重要文化財「千年家」の防火設備について詳しい説明を受けた。また、立花山に登り防火思想啓発の看板を立てた。
- ③福岡市市民防災センターで防火設備や施設を見学し、消防防災についての学習を



深めた。消火訓練では日ごろから消火器などの訓練をしているので手馴れた手つきで消火していた。暗く煙に巻かれた状態での室内からの脱出や地震・強風などを体験した。

## 一斉夜回り

11月に生徒たち自作の防災ステッカーを、島内の各家庭180件ほどに1時間半かけて配っている。現在はコンピューターの普及で、毎年新しいデザインのステッカーを生徒たちが作っている。当日は午後7時半に、集落中心部の漁村センターに集まり3つの地域に分かれて一軒一軒回り、火の用心を呼びかけながらステッカーを配っていく。家がいくつあり暗い中だが、名簿と地図をチェックして配布漏れがないように注意して配っていく。

「ごくろうさま」や「ありがとう」など励ましの言葉とともに、感謝の気持ち(お菓子やジュースなど)を準備して待っている家庭もある。生徒にとって日々の夜回り活動の苦勞がいやされるひとときである。

当日回れなかった診療所や漁協などには、翌日放課後にステッカーを届けている。

## 退団式

12月、3年生は消防クラブから退団する。消防長に制服を返還する。全生徒が一言ずつ1年間の活動を振り返っての話をし、3年生のBFC活動の努力をねぎらい、後輩へ

と活動を引き継ぐ場である。そして、3年生には夜回り活動に関わってきた時間を有効に使って、目標とする進路を実現してほしい。3年生への励ましの場でもある。

1、2年生で新たに夜回り当番を決めて、来年度の入団式まで引き継いでいく。

